

## 令和5年度 第2学期終業式式辞

長かった2学期も本日終業式を迎え、2023年、令和5年も残すところ、あと一週間となりました。

奈良学園中学校・高等学校の今年一年を振り返ったとき、令和4年度末のことですが、3月にはSSH第3期が文部科学省から認められたことは大変喜ばしいことでした。5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、少しずつコロナ禍以前の状況に戻り始め、文化祭、中学体育祭、中3・高IIの研修旅行などの学校行事も昨年とは違った形で実施できました。

また、部活動においては多くの人が全国大会、近畿大会に出場してくれましたし、先ほど表彰したとおり、運動面、文化面、学術面においても、それぞれよく健闘してくれたと嬉しく思っています。さらに先日は、生徒会の皆さんが中心となって、特殊詐欺防止啓発活動のボランティアにも参加をしてくださいました。準備も含め、協力をしてくれた皆さん、ありがとうございました。

2023年、日本を含む世界の情勢に目を向けたとき、「気候変動」の問題が印象深く残っています。

今年の7月は、気象庁が1898年に統計を取り始めてからの125年間で最も暑い7月となりました。全国の平均気温は平年と比べて1.91度も高く、11月に入ってから全国各地で25℃を超える、いわゆる夏日を記録した日もありました。線状降水帯という言葉もいつの間にか聞き慣れてきました。

地球規模でみたとき、7月の世界の平均気温が1991年から2020年までの30年間の7月平均よりも0.72℃高く、1850年から1900年の50年間の平均よりも1.5℃高くなりました。この高温熱波は、カナダや地中海沿岸の国々、ハワイ・マウイ島などの地域で大規模な森林火災も起こしています。

こうした状況をとらえて、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言し、以来、2023年を地球沸騰化元年と言われています。海水温が上昇し、大気中の水蒸気が増え、ますます激しく、頻繁に、深刻な豪雨が発生し、洪水につながることも予想されます。また、生物多様性の喪失も避けられなくなるでしょう。

今、気候変動という大きな課題に対して、私たち一人一人がどうしなければならないか問われています。残念ながら国際比較調査では「日本は他国に比べて気候変動に対する危機感が低く、自分事として捉えていない」ことが明らかになっています。他人事ではなく、課題意識をもち、閉ざされがちな思考回路を少しほぐして「あきらめずに自分にできること」を探ることが大切ではないでしょうか。

本校はSSH校として、これまで環境問題に取り組んできました。この取組をさらに発展させ、「カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組」を行いた

いと考えています。地球温暖化・沸騰化の原因となる温室効果ガスの排出を減らしたり、有効利用したりする方法を研究してもらいたい。

その手始めとして、里山整備で排出される間伐材等を炭化（炭にする）させる装置を導入し、間伐材の再利用を図ります。そして、将来的には、その装置を基にバイオマス発電につなげることで、カーボンニュートラルの研究に発展させて欲しいという期待をもっています。志のある人、興味のある人、新たな価値を見出そうとする人、是非参加してください。

ここまで、一年を振り返って、少し大きな話をしてきました。皆さん自身の一年はどうだったでしょうか。「あんなことがあった、こんなことをした・。できた」など、いろんなことが思い出されるでしょう。世の中は往々にして「何をやったか」で評価し、されることが多いわけです。私が言うのも変ですが、学校もそうです。しかし、一度、自分自身のことを「何をしなかったか」という視点で振り返ってみてください。「約束を破らなかった」「寝坊を一度もしなかった」「友達をからかったり、いじったりしなかった」「マウントを取ろうとしなかった」など。

いい意味の「・・・しなかった自分」を大いに評価してください。

さて、突然ですが、皆さんは目標や夢をもっていますか。興味や関心をもてることがありますか。案外、なかなかもてていないという人もいるのではないのでしょうか。

「羊と鋼の森」という言葉を聞いたことがありますか。これは本の題名で、著者は宮下奈都さんです。2016年に本屋大賞を受賞し、2018年に映画化され、山崎健人さんが主人公を演じました。

何にも興味をもっていなかった高校2年の青年が、ある日、体育館に置かれたピアノの調律をしに来た調律師と出会い、調律に魅せられたことから小説が始まります。その日をきっかけに調律師を目指し、念願の調律師となり、様々な人との交わりの中で、人として成長していく話です。

私が今年参加した研修会で、講師の先生がさらっと紹介されたフレーズが引っかかり、この本を読みました。素晴らしい表現がされている箇所が多く、清々しい気持ちになりました。

なかなか調律が上手にならないと感じている主人公が、ある日、先輩の調律師さんに「調律にも才能が必要なんじゃないでしょうか」と聞くと、「才能も必要に決まってるじゃないか」

才能がないと葛藤していた主人公は、心の中で「経験や、訓練や、努力や、知恵、転機（きっかけ）、根気、そして情熱。才能が足りないなら、そういうもので置き換えよう」と自分に言い聞かせていたときに、先輩が次のように言

います。

「才能ってのはさ、ものすごく好きだっていう気持ちなんじゃないかな。どんなことがあっても、そこから離れない執念とか、闘志とか、そういうものに似てる何か。俺はそう思うことにしてるよ。」

君たちも様々なことを考え、悩みながらかけがえのない人生を生きています。人のなかで何かを感じ、自分のために発せられているさりげなく、何気ない言葉を受け止める心や感性が大切です。私も高校生のときに言われた一言で、今の人生があるといっても過言ではありません。人の話に耳を傾け、正しく選ぶ取る柔軟さをもつことで、何かを見出すヒントになると思います。

高Ⅲ生の皆さん、いよいよですが、まだ時間はあります。インフルエンザ感染予防等、体調を崩さず頑張ってください。

それでは、皆さんが冬休みを事故なく過ごし、よい新年を迎えてくれることをお祈りして、私の話を終わります。

以上